

## 高 槻 市

「いましろ 大王の杜」がオープン  
～「歴史のまち高槻」を全国へ発信～

高槻市では、真の継体大王墓といわれる史跡今城塚古墳と、歴史・文化を体験・学習できる今城塚古代歴史館をあわせて整備した史跡公園「いましろ 大王の杜」を平成23年4月にオープンしました。高槻市は今城塚古墳をはじめとした数多くの貴重な歴史遺産に恵まれており、「いましろ 大王の杜」を拠点として、その特徴を活かした文化財の展示・公開等を進め、全国に「歴史のまち高槻」を発信する取組を進めています。

史跡今城塚古墳は、芥川西岸の台地上に築かれた6世紀前半の前方後円墳で、全長184mの墳丘には二重の濠がめぐり、これらを含めた総長は約350m。古事記や日本書紀などの研究や新池埴輪窯跡の発掘成果からは、古墳時代後期に活躍した継体大王の陵墓とする説が有力で、6世紀前半に築かれた古墳では日本最大の規模を有しています。

平成9年度から10年間に渡って行った確認調査では、家、人物、動物など形象埴輪が多数見つかった日本最大の埴輪祭祀場や横穴式石室を支える基礎工

事をはじめ、当時の人々がさまざまな技術をもちいて古墳を築いたことがうかがえる多くの成果を得ることができ、大王墓の古墳づくりを知るうえでも重要な資料となっています。

高槻市では、この貴重な歴史遺産である今城塚古墳を、適切に保存し、郷土の歴史文化を学ぶ場、散策や憩いの歴史的空間、歴史文化に関するさまざまな活動を支える拠点とするため、平成16年度から史跡公園化整備事業に取り組んできました。

史跡公園は、市民の皆さんが親しみ憩える場にするため、古代の壮大なモニュメントである古墳を体感できるよう、調査成果に基づいて二重の濠を復元的に整備しました。巨大前方後円墳の形を表現するとともに、今城塚古墳の真価をものがたる埴輪祭祀場を、家や武人・力士・馬・水鳥など189点の復元形象埴輪で再現しています。

一方、墳丘は地形や樹木をできるだけ残し、内堤には緑陰を確保し、内濠は水と芝生で水面の広がり、外濠は芝生で空濠を表現し、巨大な古墳の様子が



北側上空からみた「いましろ 大王の杜」 写真左下が今城塚古代歴史館



上：埴輪祭祀場  
下：はにわバルコニーと全体模型

体感できる、快適な憩いの空間を創出し、古墳北側の広場には、埴輪祭祀場を一望できる展望デッキ「はにわバルコニー」や全体模型などを設置しています。

今城塚古代歴史館は、今城塚古墳の出土品や調査成果をパネルや映像、ジオラマ模型によって詳しく解説する常設展示室や企画展示室、勾玉やはにわづ

くりなどもできる体験学習室などを備え、専用通路で古墳と結んでいます。

常設展示室では、発掘調査から分かった三島地域の古墳時代についての解説や、出土した埴輪・副葬品、市民参加で製作した3基の復元石棺などを展示。企画展示室では、重要文化財や国宝なども陳列可能な構造となっており、さまざまなテーマで特別展や企画展を実施し、広い視野から貴重な文化財に親しんでもらおうと取り組んでいます。

「いましろ 大王の杜」は、平成23年4月のオープン以来、全国から8万人を越える方々に来場いただいています。高槻市では、今後も、市民の皆さんに郷土の歴史に触れ、学んでいただける施設として、また、貴重な歴史遺産を有する「歴史のまち高槻」を全国に発信していく拠点として、さまざまな催しの開催や文化財の展示・公開、歴史遺産のネットワーク化を進めていきます。



今城塚古代歴史館 外観と常設展示室の一コマ